

科目名		電気工事実習			
担当教員		齋藤・町田・富樫・清野		実務授業の有無	有
対象学科		電気電子工学科	対象学年	1	開講時期
必修・選択		必修	授業形式	実習	時間数
授業概要、目的、授業の進め方		一般用電気工作物のケーブル配線工事、金属管工事、合成樹脂管工事を組み合わせた実習課題及び電気工事士技能試験公表問題の作成を行います。単線図から複線図にして時間内に課題を作成します。			
学習目標 (到達目標)		電気工事士技能試験を合格			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		電気工事実技教科書 (独) 雇用・能力開発機構 授業用プリント併用			
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	工具の使い方			電気工事で使う絶縁工具の名称、用途、使い方を習得。	
2	電気工事材料の知識			電験、ケーブル、配線器具の名称、用途、注意事項の学習。	
3	電線の接続			リングスリーブ接続と差込コネクタの接続	
4	配線器具の接続			差込の配線器具の接続、取り付け、固定、支持。	
5	ケーブル配線工事			コンセント回路、スイッチ回路の配線工事。	
6	金属管の切断と曲げ加工			ねじなし金属管の切断、曲げ加工、接続を行う。	
7	金属管工事			ねじなし金属管とアウトレットボックスによる金属管工事。	
8	合成樹脂管の切断と曲げ加工			トーチランプを使った熱による合成樹脂管の曲げ加工。	
9	合成樹脂管工事			VE管を使った合成樹脂管工事	
10	電気工事士技能試験問題			電気工事士技能試験公表問題の練習。	
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
平常点	課題	期末試験			
5 %	15 %	80 %	%		
成績評価基準は A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴		電気工事士・施工管理技士として30年間電気工事の現場に係わっていた。第一種電気工事士			